

チェンソーは 刃が命

組合員のための チェンソーの目立て講習会を開催



参加者の中には、チェンソーを購入してから目立てをしたことがない、目立ての方法を知らないという人もいました。しかし、講習が終わり、目立ての完了したチェンソーで木材の試し切りをすると、あまりの切れ味の良さに「もつと早くに習っておくべきだった」との声も聞こえきました。

機械のもつ本来の性能をいかんなく発揮させるためには、日々のメンテナンスが欠かせません。

チェンソーの切れ味は作業効率や安全に直結するため、林業のプロにとつては毎日の目立ては欠かせない作業、むしろ習慣です。しかし、たまに使う人にとっては、目立ては面倒で、あまり必要性を感じない作業なのかもしれません。

令和三年十一月六日（土）、本組合事務所前庭を会場に、組合員のためのチェンソーの目立て講習会を開催しました。講習は本組合の森林整備課職員が講師となり、参加した組合員に目立ての方法をマンツーマンで指導するというもの。

令和四年五月二十日、永年にわたり携わっている分野で公共福祉のために尽力してきた人を表彰する「群馬県総合表彰」が行われ、本組合森林整備の曾根守課長が、林業部門で表彰されました。

曾根課長は平成七年に旧倉渕森林組合に入職、以来二十七年間にわたり現場業務一筋で技術を磨き、特にチェンソーによる伐倒では他の追随を許さない卓越した技術をもつています。

平成二十三年には総班長、令和元年には森林整備課長となり、技術の承継、後進の指導にも力を発揮しています。



群馬県総合表彰を受賞

森林整備課 課長 曾根 守